

もう一度 母校で学びましょう！

関西学院からは今年もまた多くの卒業生が
巣立ちました。

四月には新入生がキャンパスでの学びをス
タートさせます。

新しい学園生活への期待に胸躍らせたころ
のことが懐かしく思い出されます。

今だからこそもう一度学びたい、という意
欲が湧き上がる方も多いでしょう。

ずっと第一線で頑張ってきた、退職後は好
きな歴史をじっくり学びたい。

子育ても一段落、いろいろ経験したからこ
そ、もう一度心理学を学びたい。

今が一番の頑張りどき、経営についてしっ
かり学んでおきたい。

などなど・・・

そんな方々に、今回は関西学院大学が提供
するさまざまな学びのプログラムをご紹介します。
します。



村田 治 教務部長

大学では、卒業生も利用できる様々な学習プログラムを提供しています。私たちのライフスタイルが多様化し、また変化する中で、学習への欲求は確実に高まっているといえるでしょう。そして、せっかくなら母校で学びたいというのは同窓生なら自然な感覚ではないでしょうか。より多くの同窓生が母校のプログラムを活用することで、母校との絆を深め、新たな学びを通じて一人ひとりが「Mastery for Service」(社会に貢献するために自らを鍛え、実力を身につけよ)を実践できればと願います。

今回は、大学で生涯学習プログラムを統括している、村田治関西学院大学教務部長にお話を伺いました。

▼まず、大学の生涯学習の考え方を教えてください

本学の生涯学習の柱として、「リカレント教育」「リテラシー教育」「ライフワーク教育」を掲げています。「リカレント教育」はビジネスパーソンを中心としたキャリアアップ、ステップアップのためのプログラムです。「リテラシー教育」は、資格取得をめざす方のためのプログラム、「ライフワーク教育」は趣味や興味に応じて自己実現を目指す方を想定したプログラムです。これらのプログラムを通じて、大学の社会・近隣への貢献、知的財産の社会・近隣への還元への役割が果たせると考えています。

それから、卒業生に対するサービスという視点も重要です。卒業したら関学から何もサービスが受けられないというのは、母校に対する関心も薄れていきます。大学教育は卒業させることで終るわけではありません。労働市場が流動化しているとき、社会人は常に自己研鑽を求められています。市民生活を送る中でも学びの欲求や向上心、自己実現の欲求はあります。卒業後のアフターフォローではなく、学びたいときに学べる、生涯教育サービスを提供していく姿勢が必要です。関学で学んだ学生が一生涯暮らしていく上で、役に立つプログラムを提供したいと考えています。

大学教育の根幹は、卒業してから生きていくための価値観やポリシーを身につけることにあります。

大学では、現在、在学生の教育プログラムとして、ジョイントディグリー制度やライフデザインプログラムを実施しています。ジョイントディグリー制度は最短4年間で2つの学士を取得する、つまり2つの学部専門知識を身につけて卒業できる制度です。

ここでは、将来の自分の職業や生き方を考えるとき、どんな知識が必要なのか、何を学ぶべきかを早い時期から考え、計画的に学ぶことが求められます。ライフデザインプログラムは、一生涯かかって自分の価値観、人生観を確立することを促すプログラムです。このプログラムでは、たとえば、各界のトップの方を講師に招いて、その価値観や人生観を学ぶという授業もあります。

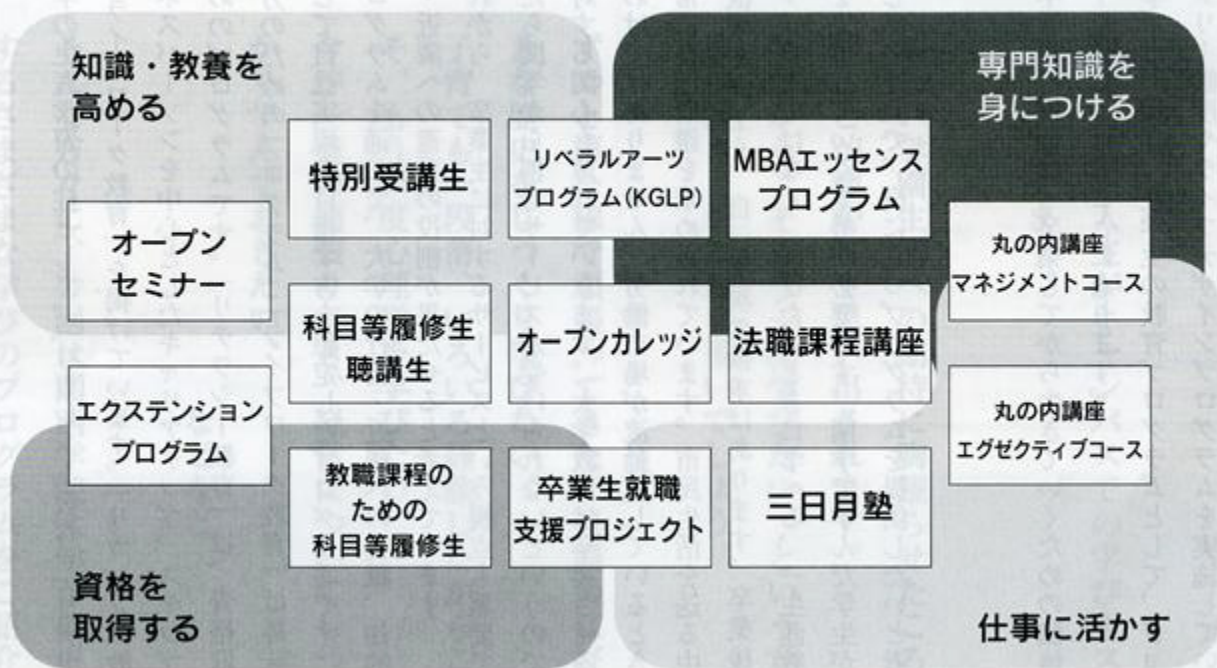
このように、在学中から卒業後を通じて、自分の価値観を確立していける教育サービスを提供していくことが必要だと考えています。

▼各プログラムの特徴を教えてください

オープンセミナーは一般市民を対象とした無料の公開講座です。春・秋の土曜日にそれぞれ西宮上ヶ原講座と神戸三田キャンパス講座を開講しています。2006年度秋から神戸三田キャンパス講座は三田市と共催のプログラムとして実施しています。

大学の正課授業を開放しているのが、リベラルアーツ・プログラム(KGLP)、科目等履修生、オープンカレッジ、聴講生、特別受講生です。つまり、在学生と机を並べて学ぶということですね。この中で、聴講生、特別受講生以外は単位が得ます。もちろん定期試験を受けて合格すれば、ですが。

法職課程講座は法律の専門家を目指す学生のために特別に設けられたプログラムで、単位は得ませんが卒業生も受講できます。KGLP、オープンカレッジ、法職課程講座はコース制ですので、体系的に学びたい方にはお勧めです。コース制の場合、社会人同



同窓生が利用できる生涯学習プログラム

詳細はHPをご覧ください。 http://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/index.jsp

- *1 NUC(西宮上ヶ原キャンパス)、KSC(神戸三田キャンパス)、OUC(大阪梅田キャンパス)
 *2 受講料は2007年度同窓生適用額。後期開始の一部講座で改定される場合があります。
 大学・大学院の正規科目を履修する場合・受講する科目により金額が異なる場合があります。

プログラム	概 要	開 講 場 所 *1	開 催 時 期	受 講 料 *2
オープンセミナー	関学教員中心の講師による公開講座。 2007年度春季テーマ 「フランス通になろう!」 「阪神タイガースと上方落語から関西経済を見る」	NUC 三田市キッピーモール	春季(5月、6月)の土曜日 秋季(10月、11月)の土曜日 各テーマ2~3回	無料
リベラルアーツ・プログラム(KGLP)	大学の正課授業を履修。学部の枠を超えて体系的に学べる。テーマごとに10単位履修可。8単位取得で修了証書授与。大学図書館利用可。学内システムID発行。	NUC・KSC	通年(4月~翌年3月)	1テーマ 69,600円 検定料 14,000円
科目等履修生	大学・大学院の正課授業を履修。単位取得可。学部、研究科ごとに申し込む。履修単位数制限あり。大学図書館利用可。学内システムID発行。	NUC・KSC OUC	春学期(4月~8月) 秋学期(9月~3月) (学期ごとに募集)	1科目 15,000円 検定料 14,000円
オープンカレッジ	科目等履修生の応用プログラム。体系的に学べる。単位取得可。大学図書館利用可。学内システムID発行。	NUC	通年(4月~翌年3月)	検定料 14,000円
社会人のための課題研究コース 社会調査士コース オープンカレッジ・タイプロコース	「現代社会研究コース」「社会福祉研究コース」など。 修了者は社会調査士の資格取得申請可能。 「現代経済の見方」「経済のメカニズム」など6コース。	(社会学部) (社会学部) (経済学部)		149,000円 89,400円 178,800円
教職課程のための科目等履修生	教育職員免許状(中学校、高等学校)、 学校図書館司書教諭、博物館学芸員資格取得。 大学図書館利用可。学内システムID発行。	NUC・KSC OUC	春学期(4月~8月) 秋学期(9月~3月) (学期ごとに募集)	1科目 15,000円 検定料 14,000円
聴講生	大学・大学院の正課授業を履修。 学部、研究科ごとに申し込む。履修単位数制限あり。 大学図書館利用可。学内システムID発行。	NUC・KSC	春学期(4月~8月) 秋学期(9月~3月) (学期ごとに募集)	1科目 15,000円 検定料 14,000円
特別受講生	大学の正課授業を履修。大学図書館利用可。 学内システムID発行。	NUC・KSC	春学期(4月~8月) 秋学期(9月~3月) (学期ごとに募集)	1科目 15,000円
総合コース ひょうご講座	総合コースのみの履修。科目数制限なし。 兵庫県在住または在勤の方が対象。科目数制限なし。			
法職課程講座	本学卒業生の現役弁護士、司法書士による講座。 法職基礎講座 司法書士入門講座	NUC	5月~12月	57,000円 48,000円
エクステンションプログラム	専門学校講師による資格試験対策講座。 TOEIC対策講座、FP技能士、中小企業診断士など。	NUC・KSC OUC	通年(4月~翌年3月)	HP参照 (同窓生特典あり)
卒業生就職支援プロジェクト	同窓生限定。再就職・転職のサポート。 導入時研修などの教育コンテンツと職業紹介・登録、 専門家によるコンサルティング。 大学図書館利用可。学内システムID発行。	e-learning 導入時研修 NUC又はOUC他	春季(5月~翌年4月) 秋季(11月~翌年10月)	18,000円
金融業界プログラム	証券外務員二種、FP2級などの資格取得。			
丸の内講座	ビジネスパーソン対象。夜間開講。 エグゼクティブコース マネジメントコース	東京オフィス	前期・後期 (各期 月1回計6回) (各講座 週1回 計5~6回)	24,000円 24,000円
丸の内講座 in 大阪	ビジネスパーソン対象。夜間開講。 実務家による連続講座。各期4講座程度。	OUC	前期・後期 (各講座 週1回 計5~6回)	1講座 18,000円
三日月塾	35歳を中心とした同窓ビジネスパーソンの自己研鑽の場。 実業界でトップとして活躍する同窓生による講話と懇談。	東京オフィス	通年(3月~12月)	34,000円
三日月塾 in 大阪	35歳を中心とした同窓ビジネスパーソンの自己研鑽の場。 実業界でトップとして活躍する同窓生による講話と懇談。	OUC	通年(3月~12月)	34,000円
MBA エッセンスプログラム	経営戦略研究科の正課授業のエッセンス。夜間開講。 短期間で専門能力を養成。 入門プログラム 展開型プログラム	OUC	通年(4月~翌年3月) (各講座 週1回 計6回) (各講座 集中 計4回)	1講座 80,000円 1講座 60,000円

受講生の声

小川 信子

1976年文学部卒業

KGLP受講



私は昨年、30年ぶりに大学に戻り、KGLPというプログラムの中の「心とカウンセリング」というコースを受講しました。在学中に教育心理学を専攻したこともあって、卒業後も心の問題には強い関心を持っていました。もう一度、どうしても勉強したいと思った時に、この

プログラムで学部の枠を超えて一つのテーマについて勉強できることを知り、受講することに決めました。

最初は不安や戸惑いがありましたが、同じコースを受講した方たちと親しくなれたことが私にとって大きな支えとなり、大学に行くことが楽しくなりました。また、先生方にも恵まれ、講義をきくこともとても楽しみでした。ただ一つ頭を悩ませた定期試験も、無事に単位が取れたときには、頑張ればまだできるんだという自信になりました。

今回、講義を受けてみて、社会人としていろいろな経験をした今だから理解できること、心に残ることがたくさんありましたし、私自身のことでもいろいろな発見がありました。

この貴重な経験を活かして、少しでも人の心に寄り添えるよう、ささやかでも自分のできることをやっていきたいと思っています。

小川さんが履修した

2006年度KGLP科目

テーマ「心とカウンセリング」

春学期

「異常心理学」「精神保健」

秋学期

「精神医学」「臨床心理学」

「精神保健学」

2007年度KGLPテーマ

聖書の世界を学ぶ

キリスト教とヨーロッパ文化

癒しとターミナルケア

心とカウンセリング

ジェンダーとセクシュアリティ

日本の伝統文化を学ぶ

日本とアメリカ

東アジアを学ぶ

ヨーロッパの近代を考える

日本の近代を考える

日本の戦後を考える

地域の経済と社会

異文化理解と国際ビジネス

ベンチャービジネスとアントレプレナー

NPO入門

士あるいは在学生と親しくなる機会が多いというのも、学習の助けになっただけです。同じ授業で顔を合わす機会が増えるので、情報交換にも役立つそうですよ。

エクステンションプログラムは資格試験対策講座です。同窓生が利用できるコースは、2007年度は23コースありますので、大いに活用してください。このプログラムは、自分の将来をデザインするときに必要と思われる資格取得をサポートするプログラムで、専門学校よりも安価に設定し、授業終了後に学内で受講できるしくみになっていますが、梅田キャンパスで開講している講座もありますし、FP技能士講座などはe-learningが利用できます。

丸の内講座は東京と大阪で開講しています。エグゼクティブコースは東京のみの開講ですが、半期毎にテーマを設定し、各界の著名人・有識者を講師に招いての月1回、計6回のセミナーです。マネジメントコースは、関学の商学研究科マネジメントコース修了者の若手経営者や実務家を講師とした講義で、およそ週1回で5回から6回のコースです。理論を踏まえながら実践との橋渡しをするもので、これからマネジメントを学ぼうという人が、経営学にどんな領域があるのかや、自分の課題解決にはどの領域を学ばよいかを知るきっかけにさせていただくのに適しています。

さらに専門的に経営学を学びたい人には、MBAエッセンスプログラムがあります。こちらは、経営戦略研究科教員による講義で、ビジネススクールの授業内容をもとにテーマ別に短期間で専門知識が身につくよう設計されています。このプログラムが本格的にスタートするのは2007年度からになります。ビジネススクールの正課授業を履修できる科目等履修制度もあります。

三日月塾も東京と大阪で開催していますが、今後の社会のリー

ターとなるべき年代層の同窓生を対象に、森下同窓会会長など経営のトップの方々が講師となつての自己研鑽の場です。3月から12月までの月1回計10回の開催ですが、異業種交流の場ともなっています。最終回には、学長を招いて、塾生による卒業研究発表が行われています。

卒業生就職支援プロジェクトも同窓生のみが対象です。転職でキャリアアップを考えている方や結婚や育児などで退職して再就職を希望する女性などを対象に、資格取得プログラムと職業紹介・コンサルティングを組み合わせたプログラムです。2006年度から開始したプロジェクトで、現在は、金融機関への就職・転職をめざす「金融業界プログラム」のみですが、今後は他業種、他業界へ対象を広げる予定です。



受講生の声

横田 孝誠

1996年経済学部卒業

丸の内講座受講



「あっ、関学のポスターや。」地下鉄銀座線の車両内で見かけた、関西学院丸の内講座の広告。それが、丸の内講座との出会いでした。そもそも関西学院大学の東京同窓会の存在すら知らず、ましてや関学が丸の内ですら社会人向け講座を開催しているとは夢にも思いませんでした。社会人大学に入学するには金銭的及び時間的拘束のハードルが高いと感じており、丸の内講座はそんな安・近・短のニーズにぴったりはまるものでした。(しかも関学卒業生はさらに割引があり、一層お得感あり！)

丸の内講座と言っても様々な種類の講座が開催されています。エグゼクティブコースは某ニュース番組でおなじみの村尾教授のコネクションをフルに活かし、毎回、各省の官僚の方を講師とした「霞ヶ関は今」をテーマに1回/月開催されています。その他、マネジメントコースとして「金融・証券基礎講座」「MBA マネジメント基礎講座」や組織論・財務分析等、実務に即した講座などが開催されています。関東近郊にいらっしゃる卒業生の方々、是非、一度、丸の内講座を覗いて見ては如何でしょうか？



受講生の声



濱垣 佐知子

1998年経済学部卒業

丸の内講座 in 大阪受講

私は母校関学がビジネスパーソン向けの講座を開講していることを知って興味を持ち、最初に人材戦略を受講しました。この人材戦略の講義が非常に勉強になったため、基礎講座Ⅲ、財務戦略と続けて受講させていただ

ことにしました。

丸の内講座の魅力は、まず講師がビジネスの第一線で活躍されている実務家の方々であることだと思います。理論だけでなく実務に照らし合わせた内容をお話いただけるので、講義の内容をダイレクトに自分のビジネスに応用することが出来ます。また、共に学ぶ意識の高い受講生の方々からも大変刺激を受けました。さらに私は、この講座がきっかけでMBAに興味を持ち、関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科を受験。来春から大学院で本格的に経営について学ぶ予定です。

同窓生の方でマネジメントやMBAに少しでも興味のある方は、ぜひ受講することをオススメします。講義のたびに何か新しい気づきがある、私自身はそう感じています。



あらゆる年代層で利用できますか

三日月塾は30代、40代のビジネスパーソン対象ですが、その他のプログラムに年齢の指定や制限はありません。参加されている方の傾向としては、オープンセミナーは60代が多く、KGLPなど正課授業の受講は50代、60代が多くなっています。正課授業は昼間の授業ですから、サラリーマンには参加しにくいかもしれません。丸の内講座は仕事帰りに学べるような夜間の開講ですから、20代から50代まで、幅広いビジネスパーソンに参加していただいています。

卒業生就職支援プロジェクトは、就職を目指すものですから、ある程度の制限はありますね。このプロジェクトについては、他にも条件がありますので、希望される方は生涯学習課に問い合わせただければと思います。

受講のための審査がありますか

オープンセミナーは往復はがきでの申し込みですが、それ以外はその定の申請書や申込書が必要です。KGLP、オープンカレッジ、科目等履修生、聴講生などは面接審査があります。三日月塾では推薦書が必要です。その他のプログラムは申し込み先着順になっています。特別受講生は応募者が募集人員を超える場合は抽選です。それぞれに申込期間がありますので、ホームページや問合せ先部課で確認してください。

受講生の声



上野 智基

1998年経済学部卒業

丸の内講座 in 大阪受講

マネジメント基礎講座

マネジメント・プロフェッショナル講座

人材戦略プロフェッショナル講座

マーケティングプロフェッショナル講座

「母校でもう一度勉強をしたい」—特に経済学部出身の私は経営学の学習がほとんど出来ていなかったため、またとないチャンスと考えたのです。週1回の授業ということもあり、無理のないペースで受講ができ、年齢も環境も違う多くの学友を得ることが出来ました。授業の内容は、関西学院のMBAコースを修了された社会の現場に出ておられる諸先輩方ということもあり、分かりやすくまた具体的な事例を中心に学べました。学生時代は学費を親に出して貰っていたのに対し、社会人になってからの受講は自分が稼いだお金から捻出をすることや実務に直結しているということから勉学に向かう姿勢は大きく異なりました。ここで得たものは、プライベートで行っているスカウト活動や仕事でも活かせるエッセンスが満載で、これからの人生が大変楽しみです。



同窓生の特典はありますか

受講料が必要なプログラムでは、一部を除いて同窓生割引があります。同窓生だけというわけではありませんが、図書館が利用できたり、学内のネットワークにアクセスできるIDを交付するプログラムもあります。学習プログラムの利用だけでなく、学内施設も大いに活用していただきたいですね。

新しいプログラムへの取り組みについて

きかせてください

大学も労働市場の変化に対応して、提供するプログラムを変えていかなければなりません。

特に、団塊の世代への対応として、生きがい追求のプログラムを大学としても提供していく必要があると考えています。すでに大学教育を受けた受講生が満足できる高いレベルのプログラムが求められます。KGLPは、テーマ別のコースを設定し、複数学部から授業を提供している横断プログラムになっていますが、こういうプログラムはさらに広げていきたいと考えています。これは、関学に他学部履修の土壌があり、学ぶ環境としての学部の垣根が低いということがあると思います。

このように、大学の個性を生かしたメニューであり、かつ学ぶ人の個性に応じたメニューを準備したいと思います。

また、東京・大阪以外のエリアにいても学べるしくみが必要です。入試での西日本戦略とも連携して、出張講座なども検討中です。同窓生についていえば、終身アドレスを交付してe-learning

で学べないかといった課題もあります。

また、生涯学習で学んだ人たちが、自己実現する場、実践する場がないというのが現状です。自分だけの知識にとどめず、社会参加できる場を立ち上げたいと思います。同窓生のための自己実現プログラムを模索中です。たとえば、関学の卒業生は英語がよくできるので、それを生かせるボランティア育成や海外派遣など。実施には課題は多いのですが、同窓会とも連携しながらうまくできないかと思っています。

▼ 同窓生、同窓会に望むことは

2004年に「知のボランティア」と称して同窓生の方々の力を借りて、大学の様々なサービスに対する意見をいただいて参考にしました。30代、40代の方々からは「異業種交流の場もない、実社会での課題を研究する場もない」という意見が出されました。東京では、すでに、同窓会東京支部が「三日月塾」「新月塾」を開いています。

「三日月塾」は壮年層の同窓生掘り起こしのために東京支部が始めた塾で、次世代リーダー養成の場として、関学出身の企業トップから薫陶をうけるといえるものです。「新月塾」は三日月塾OBが講師となってさらに若い同窓生とともに学ぶ場です。こういう同窓会の先駆的な取り組みは大いに参考になりました。関学が、本格的に生涯学習に取り組むために2004年に生涯学習課を新設しましたが、その後、新規プログラムを立ち上げる中で、「三日月塾」は関西学院大学の冠を掲げて、大学の生涯学習プログラムとして実施することになりました。2006年度からは関西でも「三日月塾 in 大阪」を立ち上げました。

新月塾ブログはこちら



<http://kgshingetsu.blog89.fc2.com/>

受講生の声

田中 磨子

1987年商学部卒業

三日月塾第4期卒業生



三日月塾は、企業で中堅クラスを担う関学OB・OGによる勉強会です。一年コースで月1回開催され、每期35人位の生徒が集まります。すでに東京では第5期が終了し、昨年は大阪でも第1期生が卒業しました。

一講義一講師で、毎回違った方の講演を聴くことが出来ます。講師は我々の大先輩であり、各分野でトップマネジメントとして活躍されている方々で、経営のノウハウというよりも、若い頃の体験談やご自身の人生観などについてお話いただいています。三日月塾でなくては聞くことの出来ない貴重な内容であることは言うまでもありません。もちろん講義後のワンコインパーティー（自主的懇親会）は、ネットワーク開拓の為にも欠かせません。大学卒業後すぐに東京へ来てしまった為、関学とは全く縁が無かった私ですが三日月塾のおかげで今でも親しくお付き合いできる仲間ができました。

さらに卒業生が若手の集まりである新月塾での講師を担当したことにより新月塾生との交流が始まり、とうとうブログを立ち上げるまでになりました。関西学院大学ならではの三日月塾・新月塾とも塾生募集中です。久しぶりに関学にかかわってみたい方、関学を足がかりにネットワークを広げたい方、純粹に向上心に燃える方、どうぞ東京オフィスまでご連絡ください。一緒にKGOB・OG ライブを楽しんでみませんか？



また、「丸の内講座」も東京発信です。同窓会東京支部、東京オフィスが「集う」「学ぶ」をキーワードに積極的に活動されているのは大変心強いですね。「丸の内講座」は東京オフィス開設1周年を記念して設けられました。村尾教授、重名統括を始めとする東京オフィススタッフの尽力で、エグゼクティブコースから始まりました。丁度その時期に、商学研究科マネジメントコース修了生の研究会から、若手経営者として自らの仕事を通じて社会貢献するだけでなく、学んだことを母校にも還元したいとの申し出があり、マネジメントコースが生まれました。その取り組みが、2005年度末には関西で「丸の内講座in大阪」として、梅田キャンパスでも開講することになりました。

「三日月塾」や「丸の内講座」の取り組みは、生涯学習で学んだことを実践するひとつのモデルになるでしょう。学んだ人たちが知識や経験を、また次の人たちに伝え、還元する。こういうサイクルを他にも広げていければと思います。

同窓生は関西学院の財産です。その価値が高まることは、関西学院の価値が高まることにつながります。

団塊の世代が卒業したところは1学年3000名弱ですが、近年では毎年4000名を超える卒業生が社会に巣立っています。対象者が増加しているだけでなく、ライフスタイルの変化、社会の要求から、生涯学習の需要はますます高まるといえます。私たちは、同窓生、同窓会とともに、この豊かな財産を活かして、社会に貢献したいと考えています。